# テーマ報告　1999年

**テーマ報告「アーバンフリンジのランドスケープを考える（II）」**

**第一部　　丘陵地のデザイン**

司会・進行：札幌市立高等専門学校　後藤　元一

アート&ガーデンスペース滝野・創造のデザイン

　　　　　　　　　札幌市立高等専門学校 上遠野　敏

　滝野すずらん丘陵公園の渓流ゾーンで行われた、アート＆ガーデンスペース滝野でのアースワークの作品事例を紹介。自然空間の中で仮説展示の可能性や意味と意義を記載。

ファーブルの森・そのデザインの変容

　　　　　　　　　(株)キタバ・ランドスケープ・プランニング　今田　昌宏

　北海道栗山町の丘陵地内につくられた「ファーブルの森」は、身近な自然を活かしながら、そこに生息する動植物を観察し、自然を理解するための施設整備を行い、７年が経過した。その間に当初植栽された苗木は生長し、自然の修復力と適正な環境管理によって、当初のファーブルの森は時間の経過とともに周囲の景観になじんできた。

　丘陵地に展開された環境デザインは、実験的な取り組みを経て生物の多様な環境を形成することに成功したと考えられる。

**第二部　　緑づくり**

司会・進行：北海道大学大学院農学研究科　近藤　哲也

札幌市における都市近郊林保全手法の検討

　　　　　　　　　札幌市環境局緑化推進部 山本　仁

　札幌市の自然環境は比較的恵まれた状態にあるが、大部分が西部から南部に広がる市街化調整区域の森林地帯ー都市近郊林ーに集中している。この貴重な財産である都市近郊林を将来とも保全し、豊かで多様性に富んだ生活環境を維持・形成していくため、どのような保全手法へと発展させることが望ましいかについて検討することを目的としている。ここでは都市近郊林の現状を把握し、これまでの保全手法の検証を行うとともに、都市近郊林の自然的・社会的条件を把握することにより、今後の保全手法のあり方を検討している。

社会資本としての樹林づくり

　　　　　　　　　専修大学北海道短期大学 斎藤　新一郎